

当院において思春期特発性側弯症の治療を受けられた方およびその ご家族の方へ

—「思春期特発性側弯症患者の体幹バランス機能に関する研究」へご協力をお願い—

研究機関名 岡山大学病院
研究機関長 病院長 前田 嘉信

研究責任者 岡山大学病院 整形外科 助教 小田 孔明
研究分担者 岡山大学病院 整形外科 助教 堅山 佳美
岡山大学病院 整形外科 講師 魚谷 弘二
岡山大学病院 総合リハビリテーション部 理学療法士 山脇 諒子

1) 研究の背景および目的

思春期特発性側弯症は、背骨の変形を生じる代表的な疾患で、10～20歳の思春期の女子に好発します。思春期特発性側弯症では、背骨の変形（側弯）が進行するにつれて、外見上の変化（肩の高さの左右差、肋骨の隆起、ウェストラインの左右差など）が出現、進行するだけでなく、体幹バランスが崩れ、姿勢を維持する能力にも影響を及ぼすことが報告されています。体幹バランスの評価としては重心動揺検査が一般的です。しかし、これらの報告は、静止した状態（まっすぐ立っている、または座っている）での重心動揺検査による評価であり、より日常生活での動作に近いような、前後左右に動いた際の重心動揺検査による評価の報告はありません。

本研究は、当院整形外科を受診された思春期特発性側弯症の患者さんを対象として、静止した状態および前後左右に動いた際の受診動揺検査を用いた体幹バランスの評価を行い、側弯の進行と体幹バランスとの影響を明らかにすることで、外来および手術前後における体幹バランスに対する指導やリハビリテーションの一助となる可能性があります。

2) 研究対象者

2019年4月1日～2027年3月31日の間に岡山大学病院整形外科において思春期特発性側弯症の治療ために外来を受診された方150名を研究対象とします。

3) 研究期間

倫理委員会承認後～2027年5月31日

4) 研究方法

当院において思春期特発性側弯症の治療のために外来を受診された方で、研究者が診療情報をもとに患者基本情報（年齢・BMI・運動歴）、レントゲン検査、重心動揺検査データを選び、側弯の程度（Cobb角と

言います)と体幹バランスに関する分析を行い、側弯の程度(Cobb角)と体幹バランスとの関連および年齢・体形・運動歴と体幹バランスとの関連について調べます。

5) 使用する情報

この研究に使用する情報として、カルテから以下の情報を抽出し使用させていただきますが、氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できる情報は削除し使用します。また、あなたの情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

- ・ 患者基本情報(年齢、性別、身長、体重、BMI、既往歴、運動歴、所属部活動)
- ・ 診察所見:レントゲン検査、重心動揺検査のデータ

6) 情報の保存、二次利用

この研究に使用した情報は、研究の中止または研究終了後5年間、岡山大学病院整形外科内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。なお、保存した情報を用いて新たな研究を行う際は、倫理委員会にて承認を得ます。

9) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。

また、この研究における個人情報の開示は、あなたが希望される場合にのみ行います。あなたの同意により、ご家族等(父母(親権者)、配偶者、成人の子又は兄弟姉妹等、後見人、保佐人)を交えてお知らせすることもできます。内容についておわかりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。

この研究は氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。また、あなたの情報が研究に使用されることについて、あなたもしくは代理人の方(ご家族の方等も拒否を申し出ることが出来る場合があります。詳細については下記の連絡先にお問い合わせください。)にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申し出ください。ただし、すでにデータが解析され、個人を特定できない場合は情報を削除できない場合がありますので、ご了承ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者さんに不利益が生じることはありません。

<問い合わせ・連絡先>

岡山大学病院 総合リハビリテーション部

氏名:山脇諒子

電話:086-235-7752(平日:9時00分~17時00分)